

国土審議会北海道開発分科会企画調査部会中間取りまとめに関する主な意見と意見に対する考え方について

1 意見交換会について

項目	いただいた主な意見	意見に対する考え方
1. 北海道総合開発計画の在り方等について		
	<p>地方公共団体等の意向を反映させる方法として、平成14年1月に各支庁単位で発足した地域連携会議を活用すべき。</p> <p>地域連携会議を活用する場合の考え方としては、個々の市町村の意見が重要(少数意見として、市町村等の意見を集約し、圏域等の地域全体の意見にまとめ上げるべき、との意見もあった。)</p> <p>北海道が市町村等の意向を集約すべきであり、国と道が個別に意向を聞けば二重行政になる。</p>	<p>御意見を参考に、地域連携会議の効果的な活用などにより、地域の意向が適切に把握できるよう、今後、関係機関とも相談しながら対応したいと考えています。</p>
	<p>計画の策定に係る地域の意向を把握する時期については、計画策定作業の当初から、何度か機会をつくるべき(計画策定作業が一定程度進み、計画に描かれる地域の姿が明らかになった段階で意見を聞いてほしい、との意見もあった。)</p> <p>計画に意見がどう反映されたかというフォローも重要。</p>	<p>御意見を参考に、地域の意向を適切な時期に把握できるよう、今後、関係機関とも相談しながら対応したいと考えています。</p>
2. 重点課題の推進方策について		
(食料基地としての役割の強化)	<p>道民が一体となって地産地消を推進するなど道産品を支援するシステムをつくる必要がある。</p> <p>北海道は、独自に食の安全性について全国より厳しい取組をすべき。</p> <p>漁業、漁村について、もっと重視すべき。</p>	<p>-2-(1) に「生産から消費に至る総合的なフードシステムの確立」を記載しており、施策の具体化に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>-2-(1) 中に「食」の生産、流通及び消費に係る人々が一体となった、食文化の創造及び食品の生産、加工等に関する正確な情報を発信するシステムの構築やHACCPなどの品質管理の徹底等による北海道ブランドの信頼性の確立」を記載しており、施策の具体化に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>御指摘の趣旨を踏まえ、記述を追記しました。</p>
(新たな産業育成)	<p>北海道の特性を生かし、風力発電、雪冷熱、バイオマスの積極的活用が必要。</p> <p>新たな産業育成のためには、既存産業を活用していくことが現実的であり重要。</p>	<p>-2-(2) ア及び -2-(3) に「新エネルギー」に関する施策を記載しています。</p> <p>成長期待産業として新たな産業育成を行うほか、既存産業の活用を図ることが有効な方策であると認識しており、今後の施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p>
(環境保全)	<p>治水事業について、自然と共生できるような北海道型の河川工事手法を用いてほしい。</p> <p>ホタテの貝殻など水産系廃棄物のリサイクルを推進するため、公共事業におけるリサイクル製品の積極的活用に係る検討が必要。</p>	<p>自然との共生や自然環境の保全・再生については、-2-(3)に記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。また、-3-(2)において、今後の北海道開発事業の推進に当たっては、21世紀の課題に対応した重要分野に絞り、重点的に投資を行うべきとの趣旨を記載しています。</p> <p>ホタテの貝殻利用を始めとする公共事業におけるリサイクル製品の積極的活用が必要であると認識しており、今後ともその推進に努めてまいります。</p>

項目	いただいた主な意見	意見に対する考え方
(観光交流の促進)	<p>きれいな空気で天体観測に向いていることなど、恵まれた環境を生かし北海道独自の観光の確立を目指すべきである。</p> <p>首都圏や東アジアへの情報発信とプロモーション、ホスピタリティ推進やボランティア活動への支援、近代遺跡などの新たな観光資源の発掘などが必要である。</p>	<p>-2-(4) に「北海道の「ブランド力」を生かす新しい観光の実現」を記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p>
(国際交流と人材開発の拠点づくり)	<p>地域の自然特性や研究施設等を生かした総合的な生涯学習の場の形成を図りたい。また、地域の資源を活かし、体験学習、体験観光の推進を図っており、産業育成にもつなげたい。</p>	<p>-2-(3) に「自然との共生」について記載しており、その中で河川環境等を活用した環境教育・学習の場の提供等の推進を図ることとしています。また、-2-(5) において、「豊かな自然環境や開放的風土を活かした自然の中で人間性を育む社会人教育、青少年教育、趣味の教育の場の全国に対する提供」について記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p>
(安全でゆとりある快適な地域社会の形成)	<p>北海道では、特に冬期の交通安全対策が大問題であることを明らかにすべき。</p> <p>高速道路等の整備で従来の中継機能を失う地域への対策も課題である。</p>	<p>-2-(7)に「冬期における交通機関の定時性や安全性の確保のための冬期路面管理の充実」を記載しています。</p> <p>高速道路等の整備による影響等を、地域ともよく議論し、その上で対応すべき課題であると考えます。</p>
(人流・物流・情報流の基幹的ネットワークの推進)	<p>高規格幹線道路等のネットワーク整備が重要である。</p> <p>新幹線についてより踏み込んだ記述をすべき(そもそも記述すべきではない、との意見もあった。)</p>	<p>-2-(7)に「人流・物流・情報流の基幹的ネットワークの推進」を記載しており、今後とも、施策の効果的推進に努めてまいります。</p> <p>-2-(7)に「新幹線等の基幹的ネットワークの推進」を記載しています。</p>
(人口減少が予想される中での地域の活力維持)	<p>地方の自立が謳われているが、地方の多くは崩壊しかけている状態にある。人口減少・高齢化にどう歯止めをかけるかが重要であり、ゆとりある住環境の魅力をアピールする施策が必要である。人口減少下における更なる札幌集中は好ましくない。地方の施策を検討すべきである。</p>	<p>-3-(1)に「人口減少が予想される中での地域の活力維持」を記載しており、長期的視点に立つ課題として総合的な検討を行う必要があると考えており、いただいた御意見についても参考とさせていただきます。</p>
(公共事業の効率的・効果的推進)	<p>インフラ整備については、市町村や民間の意見を聞き、本当に必要なものを最優先に整備してほしい。特に、高速道路網等については、費用対効果や採算性とは別の、安全性の向上、定時性の確保、医療機関等へのアクセス時間短縮による住民の保健・福祉の増進等といった数値で表せていないモノサシについても判断材料に加えてほしい。</p> <p>北海道内の道路の速度規制について、全国と異なる基準を導入することを検討してもよいのではないか。</p>	<p>-3-(2)に、今後の北海道開発事業の推進に当たっては、21世紀の課題に対応した重要分野に絞って重点的に投資を行うべきとの趣旨を記載しており、地域のニーズや意向も踏まえつつ、重点的な整備に努めてまいります。また、-2-(7)に、「高速交通ネットワークの早期形成のための総合的対策の推進」と記載しており、今後の施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>-3-(2)に北海道の特性にあった規制や基準(北海道スタンダード)の提案など北海道独自の取組を進める必要性について記載しておりますが、具体的な取組内容については、今後、様々な角度から十分な議論が必要であると考えます。</p>
(その他)	<p>厳しい経済情勢の中では「実行する」ことが必要なのであり、「実験的」という表現は適切ではないのではないか。</p> <p>北方領土に関する記述がない。</p>	<p>北海道開発の役割として、国の抱えている困難な課題解決のための様々な先駆的、実験的な取組を実施することが重要な役割であると考えています。一方、御指摘の「実行する」ことも極めて重要であると認識しています。</p> <p>御指摘の趣旨を踏まえ、記述を追記しました。</p>

2 意見募集について

項目	いただいた主な意見	意見に対する考え方
1. 北海道総合開発計画の在り方等について		
	計画策定に地域の経済団体やNPOなどの民間機関を始めとする多くの機関を参画させ、実践的な計画とすべき。	関係機関とも相談し、計画策定に当たり多くの機関の意見が反映されるよう努めてまいります。
	北海道の地域経済・産業の不振が解決されなければ、我が国発展のための開発計画は生かされない。	北海道の経済情勢が厳しいことは、企画調査部会報告に記載しており、御意見の趣旨も踏まえ、今後とも新たな産業の育成等の効果的推進を図ってまいります。
2. 重点課題の推進方策について		
(食料基地としての役割の強化)	<p>恵まれた自然環境、最新の技術・情報、経営力・頭脳を融合させ、競争力のある優れた農産物の生産・出荷、産品を使った加工食品の製造、産品を生かした料理・もてなしを組み合わせたトータルな食品産業を展開していくべきである。</p> <p>雇用の確保及び食料自給率向上のため、安全性の高い無農薬野菜の生産を推進すべきである。</p> <p>食料基地としての役割を強化するため農業・農山漁村の振興を図ってほしい。そのことが景観や魅力を高めることにつながり、観光振興にも貢献する。</p>	<p>-2-(1) に「生産から消費に至る総合的なフードシステムの確立」を記載しており、施策の具体化に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>-2-(1)に「食料基地としての役割の強化」及び -2-(4)に「観光交流の促進」を記載しています。</p>
(新たな産業育成)	<p>国の光ファイバー開放に関する規制緩和を推進するとともに、高速無線ネットワークの構築を推進すべき。</p> <p>リサイクル産業を、北海道の我が国発展への貢献のための戦略的産業と位置付けるべき。</p>	<p>-2-(2) イに「光ファイバー及び収容空間の整備・開放」等及び「無線系を中心としたネットワーク構築の促進」を記載しています。</p> <p>リサイクル産業は北海道にとって重要な産業であると認識しており、-2-(3) に「総合的な静脈物流拠点等の形成による環境関連産業の集積」を記載しています。</p>
(環境保全)	<p>環境に配慮した各種工事施工等に係る国際的に見ても最先端の研究を行う施設を設置すべきである。北海道の魅力は広大な土地、四季を彩る自然であり、これからの開発は必要最小限に抑え自然環境の保持、復元に努めるべきである。</p> <p>森林資源の保全是日本のみならず世界の温暖化対策にも寄与することから、古くて新しい公共事業として整備の促進を図るべき。そのことが雇用の創出にもつながる。</p>	<p>自然との共生や自然環境の保全・再生については、-2-(3)に記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。また、-3-(2)において、今後の北海道開発事業の推進に当たっては、21世紀の課題に対応した重要分野に絞り、重点的に投資を行うべきとの趣旨を記載しています。</p> <p>-2-(3)中に「多面的な機能が持続的に発揮されるよう森林の保全を図るための取組を進める必要がある。」と記載しています。</p>
(観光交流の促進)	大雪山系など雄大な自然景観、気候風土、山海の食べ物、文化や人間性といったものを「北海道ブランド」として確立し、活用すべきである。	-2-(4) に「北海道の「ブランド力」を生かす新しい観光の実現」を記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。
(国際交流と人材開発の拠点づくり)	アジアの若者に「北海道で学ぼう」と思わせる大学づくり(学部、教授陣、校舎の風格等)を進めてはどうか。	-2-(5) に「国際的な人材の開発」を記載しており、今後、施策の検討に当たり参考とさせていただきます。

項目	いただいた主な意見	意見に対する考え方
(安全でゆとりある快適な地域社会の形成)	<p>財産や生命の保護のほか、貴重な農産物を守るためにも治水事業が必要。事業の推進に当たっては、そうした本来の目的をわかりやすく表明すべき。</p> <p>歩行空間における冬期バリアフリーを含む交通バリアフリー施策を、高齢化の進む地方において展開すべき。</p> <p>「絵になる都市づくり」「絵になる村づくり」のための制度、事業を組み合わせた取組を展開すべき。</p> <p>札幌市中心に考えるのではなく、旭川市、函館市、釧路市などの中核都市を中心に周辺市町村が一体となって、その地域の生活経済圏を創設し、自立を図るためのインフラ整備が必要。</p>	<p>北海道開発事業の推進に当たっては、事業の目的、効果等を国民に分かりやすく説明し、理解が得られるよう努めてまいります。</p> <p>-2-(6)に「安全でゆとりある快適な地域社会の形成」を記載しており、施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>今後の施策の推進等に当たり参考とさせていただきます。</p> <p>-2-(6)に「中核・中枢都市に集積された高次都市機能の積極的な活用を通じた連携」等を記載しています。</p>
(人流・物流・情報流の基幹的ネットワークの推進)	<p>地域経済の自立や地域間交流の活性化を図る上で、高規格幹線道路の早期全線完成が課題である。また、峠の安全確保を始めとする来道者の安全な移動可能性を確保するため、幹線道路網の整備を推進すべきである。</p> <p>整備新幹線は、環境保全(航空機と比較して省エネルギー)、観光交流の促進にも貢献することを意識し早期整備を図るべき。</p> <p>高速道路を始めとする公共事業の目的が明らかになっていない。</p> <p>苫小牧港、新千歳空港などの基幹的インフラは、「百年の大計」に沿って整備すべき。完成すれば必ず長期にわたって地域の経済社会を支えることが期待される。</p> <p>経済効果を考えると、高速道路インフラは国費の投入により無料化すべき。 一方、維持管理コストの増加が予想されるため、人口を都市や農村の中心に集中させ面的整備の負担を軽くすべき。</p>	<p>-2-(7)に「人流・物流・情報流の基幹的ネットワークの推進」を記載しており、今後とも、施策の効果的推進に努めてまいります。</p> <p>-2-(7)に「新幹線等の基幹的ネットワークの推進」を記載しています。</p> <p>北海道開発事業の推進に当たっては、事業の目的、効果等を国民に分かりやすく説明し、理解が得られるよう努めてまいります。</p> <p>-2-(7)に「人流・物流・情報流の基幹的ネットワークの推進」を記載しており、今後とも、施策の効果的推進に努めてまいります。</p> <p>都市や農産漁村の整備のあり方については、将来の人口減少、高齢化の進行も踏まえ、長期的視点に立つ課題として総合的な検討を行う必要があると考えており、いただいた御意見についても参考とさせていただきます。</p>
(人口減少が予想される中での地域の活力維持)	<p>人口減少に対しては、観光を始めとする交流人口を増やすべきである。</p>	<p>-3-(1)に「人口減少が予測される中での地域の活力維持」を記載しており、長期的視点に立つ課題として総合的な検討を行う必要があると考えており、いただいた御意見についても参考とさせていただきます。</p>
(公共事業の効率的・効果的推進)	<p>公共事業の推進に当たっては、事業効果を優先し、重点化を図るべき。</p> <p>ハード施策とソフト施策の連携が必要。</p>	<p>-3-(2)に「公共事業の効率的・効果的推進」を記載しており、今後とも施策の効果的推進に努めてまいります。</p> <p>-3-(2)に「公共事業の効率的・効果的推進」を記載しており、今後とも施策の効果的推進に努めてまいります。</p>
(その他)	<p>「道外者の目と期待度」を意識するのもよいが、道民のための北海道産業、経済をどうするか、地域の現状を的確に捉え対策・施策をどう講ずるのかといった点についても検討が必要。</p>	<p>御指摘の趣旨を踏まえ、記述を追記しました。</p>